

大垣外遺跡 堀下遺跡

2014年

長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

序

箕輪町は伊那谷の北部にあり、豊かな自然に恵まれた、歴史と文化のある町です。先史の頃よりこの地の生み出す自然の恵みを求めて人々が暮らし始め、各時代を生きた先人達の努力によって今日の町の姿が築き上げられてきました。町内には、彼らが残した証である多くの遺跡が残されています。

今回調査対象となった大垣外遺跡・堰下遺跡は、南小河内区の中央部に位置し、天竜川左岸の段丘上に立地しています。

大垣外遺跡は、遺跡のほとんどが箕輪東小学校の敷地となっています。明治45年に東箕輪尋常高等小学校が移築される前は、農地として利用されていました。当該地は、校舎改築に伴い過去3回の調査が行われ、縄文時代の竪穴住居址を主体とする遺構と、それに伴う多くの遺物が出土し、集落形成がなされた事がわかつてきました。

また、堰下遺跡は、現在宅地及び農地として利用されています。本遺跡では、平成16年度に町道改良工事に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の掘立柱建物址とそれに伴う遺物、また、縄文土器片などがみつかりました。

今回、長岡・おごち両保育園が、園舎の老朽化等により合併する事となりました。この一連の事業に関連して、大垣外・堰下両遺跡の発掘調査を実施しました。調査中には多くの方が見学に訪れ、遺跡の様子に触れていただいた事は大変喜ばしい出来事でした。調査の成果につきましては、本書の各章にて詳細に記しております。本書を広く活用いただく事で、地域の歴史解明の一助となり、また、多面的文化財保護に役立つ事を切に願うものであります。

最後になりましたが、今回の調査の実施にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました箕輪東小学校の皆様をはじめ、地元南小河内区の皆様、そしてご尽力いただきました調査関係者の皆様方に、本書の刊行をもちまして心から感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会

例　　言

- 1 本文は、平成23年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3180番地2他に所在する大垣外遺跡と、平成24年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3229番地8他に所在する壇下遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の発掘調査及び整理作業等の記録保存業務は、箕輪町教育委員会が実施した。
- 3 本書の作成にあたり、作業分担を以下のとおり行った。

遺物の洗浄・注記・接合－井澤はずき
遺物の実測・トレース・拓本－井澤はずき、宮下美鈴
遺構図の整理・トレース・挿図作成・図版作成－井澤はずき
写真撮影－柴 秀毅、井澤はずき
- 4 本書の執筆・編集は、柴 秀毅、井澤はずきが行った。
- 5 発掘箇所の記録は、世界測地系座標により位置を落とした。
- 6 出土遺物及び図面写真類と本書作成に関わる図版写真類は、すべて箕輪町教育委員会が管理し、箕輪町郷土博物館に保管している。
- 7 調査及び本書の作成にあたり、下記の方々並びに機関にご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

南小河内区／箕輪町立箕輪東小学校

凡　　例

1 挿図

- ・挿図の縮尺は、各図の下部に表記（スケールを有するものも含む）した。
- ・土器拓影図中のスクリーントーン表示は、以下のものを表す。



—須恵器断面



—陶器断面

大垣外遺跡

第4次埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

本文目次

本文目次

挿図目次・表目次

第1章 発掘調査の概要.....	4
第1節 調査に至る経過.....	4
第2節 調査概要と体制.....	5
第3節 調査の経過.....	5
第2章 遺跡の環境.....	6
第1節 地形と地質.....	6
第2節 周辺の歴史的環境.....	7
第3章 調査結果.....	9
第1節 調査方法.....	9
第2節 土層堆積状況.....	11
第3節 遺構と遺物.....	12
1 土坑・ピット.....	12
2 遺構外出土遺物.....	13
第4章 総括.....	14

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図

第6図 グリッド土層断面略図

第2図 周辺遺跡分布図

第7図 土坑・ピット全体図

第3図 調査区設定図

第8図 土坑・ピット実測図

第4図 調査区遺構配置図（全体図）

第9図 遺構外出土土器拓影図

第5図 トレンチ土層断面図

第10図 大垣外遺跡遺構配置図

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表

第3表 ピット一覧表

第2表 土坑一覧表

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

大垣外遺跡は、箕輪町大字東箕輪の南小河内区に位置し、中央・南両アルプスの上昇に伴う地殻変動によって形成された段丘上に所在する。遺跡地からの展望も良く、南東に南アルプス、天竜川をはさんで西方には中央アルプスが展望できる。遺跡地は天竜川左岸より一段高い段丘上に位置し、学校・宅地が立ち並び、田畠などの耕作地も点在している。

本遺跡では、箕輪町立箕輪東小学校の増改築にあわせ、過去3回の発掘調査が行われ、縄文時代を中心とした遺構・遺物が出土している。

今回、東箕輪地区にある、長岡・おごち両保育園の園舎老朽化等により、両保育園の統合が決まり、新たに園舎を建設することとなった。建設場所候補地の一つである当該地が埋蔵文化財の包蔵地に当たる事から、町子ども未来課と生涯学習課との間で協議を重ね、その結果、既存建物以外の場所を対象に、発掘調査による記録保存を行うこととなった。業務は町教育委員会(生涯学習課)が実施することになった。



第1図 調査地位置図 (1:50,000)

第2節 調査概要と体制

- 1 遺跡名 大垣外遺跡
- 2 所在地 長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3180番地2他
- 3 調査期間 平成23年9月28日～平成23年10月7日（発掘調査）
平成25年4月1日～平成26年3月15日（整理作業）
- 4 事務局（発掘調査時）
教育長 小林通昭
生涯学習課長 唐澤清志
博物館長 中村文好
文化財係 柴秀毅（箕輪町郷土博物館 学芸員）
" 有賀一治（ " " " ）
臨時職員 中村孝子
- 5 調査団（発掘調査時）
調査団長 小林通昭
調査副団長 中村文好
調査担当者 柴秀毅
調査団員 井澤はずき、伊藤輝彦、今閑貞夫、大串進、小川陽三、堀川利平、松崎仲子（※50音順）

第3節 調査の経過

- 9月28日（水）トレーンチ設定。安全対策のバリケード設置。
- 29日（木）A区に調査用重機（バックホー）を搬入し、倉庫北側に1トレーンチを開ける。
- 30日（金）重機で倉庫西側に2トレーンチを開ける。
- 10月3日（月）1・2トレーンチの掘り下げ。写真撮影・測量。
- 4日（火）2トレーンチの土坑・ピット掘り下げ・写真撮影・測量。
- 5日（水）重機による埋め戻し。
- 7日（金）B区の1～3グリッドの掘り下げ、写真撮影・測量・埋め戻し。
重機の搬出。現場での調査終了。

第2章 遺跡の環境

第1節 地形と地質

箕輪町は、東は南アルプス、西は中央アルプスに挟まれた、南北70kmにも及ぶ伊那盆地の北部に位置する。また諏訪湖を源とし、盆地の中央低地帯を南に流れる天竜川によって、町はほぼ東西に二分された形となっている。盆地は、天竜川の低地から両アルプスの山頂に至って大起伏地帯となっており、その景観から「伊那谷」と呼ばれる。

伊那谷は、本州内陸部の中でも多くの活断層が分布し、約10km幅にそれが集中する、極めて活動的な構造盆地であることがわかっている。この地形は、第四期の地殻変動によって造り上げられた。

以前は、段丘上の地形が配列している様子は、天竜川の侵食による河岸段丘と考えられていたが、現在はそれが中央・南両アルプスの上昇に伴う地殻変動の結果、断層によって造り出された断崖崖であるということが研究によってわかつてきった。各地でこうした調査が行われ、伊那谷の地形の歴史は以前より詳しく把握されつつある。そのような事から、今後箕輪町においても、さらに詳しい調査が望まれるところである。



上空より遺跡地を望む

大垣外遺跡と堰下遺跡が所在する南小河区は、天竜川の東側にあたり、いわゆる「竜東」と呼ばれる（これに対し西側は「竜西」と呼ぶ）。箕輪町では、複合扇状地によって形成された、広大で平坦な地形が続く竜西に比べ、竜東は小規模の山が近くに迫り変化に富んだ地形となっており、比較的平坦が狭く緩傾斜が続いている。一帯の地形を造り出している要因は、南小河内区南部は沢川及び寺沢川・知久沢川、北部は北小河内区を含む東部山麓から流れ出す中小河川の押し出しにより形成された複合扇状地である。現在では、農地造成に伴いわかりにくくなってしまったが、以前はうねりを持ちながら西方に緩やかに傾斜するというこの扇状地の特徴が、もっと明瞭に現れていたと思われる。

地形においては、竜東側は、花崗岩や粘板岩などを中心とし、領家変成岩からなる結晶質石灰岩や石英玢岩が分布するなど、変化に富んだ地質になっている。これに対し、竜西側では複合扇状地の形成に伴い、広く扇状地の堆積物で覆われている。また、伊那谷を覆っている被覆層は、竜東側は比較的浅く断片的である。そのため、天竜川の支流の谷沿いには基盤岩が露出し、天竜川の合流点まで続いている。これに比べ竜西側の被覆層は厚く、基盤岩の露出が少ない。

引用参考文献

- 伊那市教育委員会・上伊那教育事務所 「小黒南原・伊勢並遺跡 緊急発掘調査報告書」 1992年
松島 信幸 「伊那谷の造地形史 伊那谷の活断層と第四期地質」

第2節 周辺の歴史的環境

箕輪町は、東西の複合扇状地を流れる中小河川や段丘下の湧水など水源に恵まれており、先史より人が暮らしやすい好的な場が多い。町内には、先人たちが残した足跡ともいいくべき多くの遺跡が残されており、平成6～8年度に実施した箕輪町遺跡詳細分布調査では、包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し、上伊那郡下においても屈指の遺跡地帯といえる。

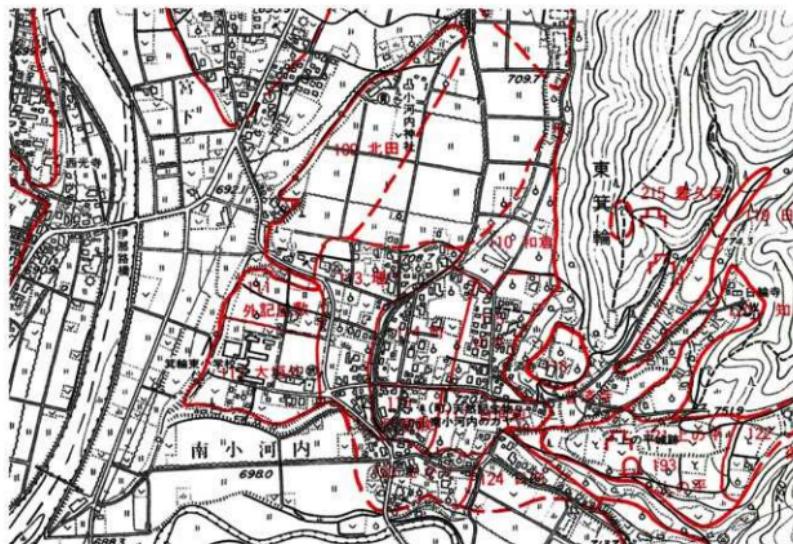
今回調査対象となった本遺跡を含む天竜川左岸北部地域（南・北小河内区）は、集落遺跡を中心として、地形的な特徴によって遺跡の分布を見る事ができる。主に、段丘突端または扇端部に広がる遺跡と、山裾（扇頂部）及び山から伸びる舌状台地に点在する遺跡とに分けられるが、扇央部にも狭い範囲ながら遺跡がみられる。これまで実施された当地域における発掘調査の事例から、これらを代表する遺跡について概観しておく。

段丘突端部に位置する大垣外遺跡（112）は、箕輪東小学校の校舎改築等に先立って、平成元・4・5年度の過去3回に渡って調査が行われ、縄文時代中期初頭の住居址や土坑群が検出されている。特に、第2次調査で検出した住居址からは「河童型」の土偶頭部が出土している。また、扇央部に位置する堰下遺跡（113）では、平成16年度に道路改良工事に伴う調査が行われ、掘立柱建物址が検出されている。

山裾及び舌状台地では、昭和63年に箕輪ダム関連公園整備事業に先立って、普濟寺遺跡（118）の調査が行われ、縄文時代中期初頭の土坑群及び集石炉と、古銭・内耳鍬・石臼等を伴う室町～戦国時代の火葬墓と思しき遺構が検出されている。また、平成10～12・23年度には、上ノ平遺跡（121・城跡含む）で発掘調査を実施している。調査では室町～戦国時代に城が利用されていた事がわかり、主郭の外周に土塁がめぐらされていた事、下段の二の郭との間に埋没した空堀が築かれていた事、四の郭の東に五の堀が存在した事など、新しい発見があった。

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代						立地	地目	備考	
			旧	圓	弥	古	奈	平				
112	大垣外	南小河内	○				○	○	○	段丘突端	宅地・烟	調- 平成元・4・6年
113	壇下	#	○				○	○	○	扇尖	宅地・烟・田	調- 平16年
109	北田	#	○				○	○	○	段丘突端	宅地・田	調- 平4・16年
110	和倉	#					○	○	○	扇頂	烟	
111	外記屋敷	#	○				○			段丘突端	烟	
114	町	#	○				○	○	○	扇尖	宅地・烟	調- 平20年
115	山本	#	○				○	○	○	扇頂	宅地・烟	調- 平20年
116	殿屋敷	#	○				○	○	○	扇尖	宅地・烟	
117	日向削	#	○				○	○	○	扇頂	宅地・烟	調- 平20年
118	普済寺	#	○					○	○	台地	宅地・烟	調- 昭63・平11年
119	日輪寺	#	○	○			○	○	○	台地	宅地・烟・荒地	
120	知久沢	#	○				○	○		扇尖	宅地・烟	
121	上ノ平	#	○	○	○		○	○	○	台地	烟・荒地	県史跡 調- 平10・11・12・23年
123	さがり	#	○				○	○		扇尖	宅地・烟・田	
124	日向	#	○	○			○			扇尖	田	
193	上ノ平古墳	#				○				台地	烟	消滅

第1表 周辺遺跡一覧表



第2図 周辺遺跡分布図 (1 : 10,000)

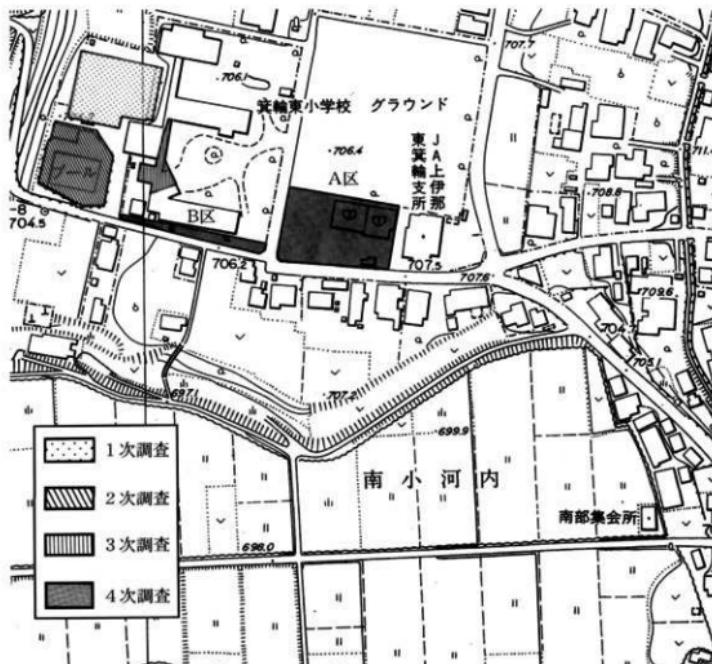
第3章 調査結果

第1節 調査方法

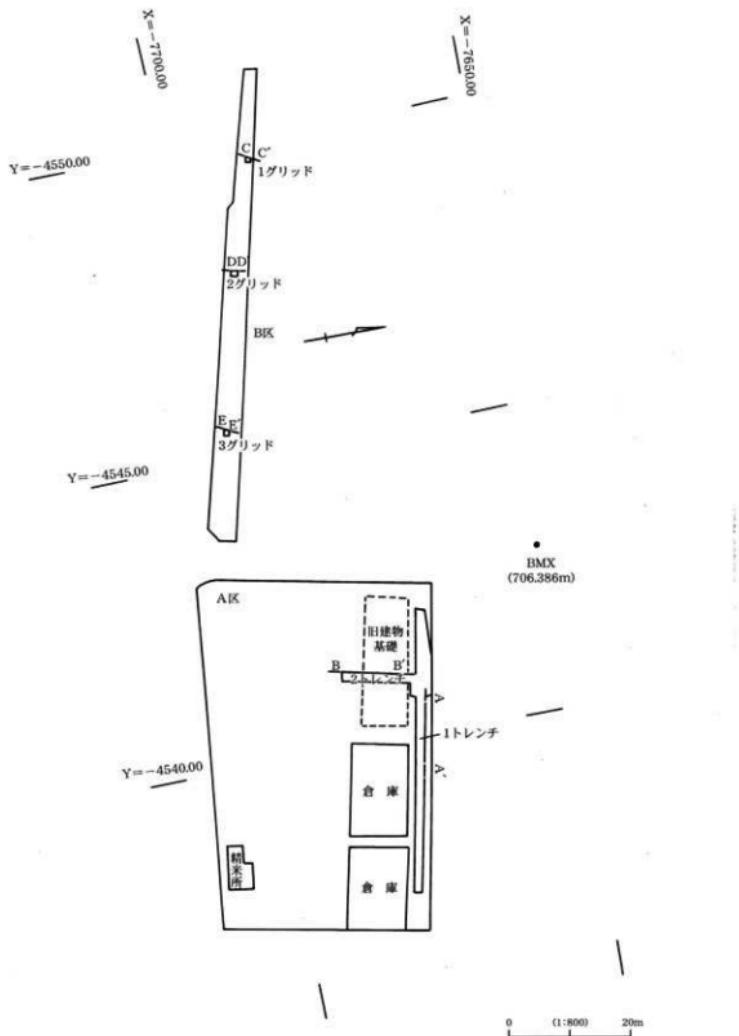
発掘調査は、まず、造構の有無を確認するために、アスファルトをはっていない既存建物（倉庫）の北側と西側にトレーナーを設定した。また、道路拡幅予定の校舎南側にも、試掘のためのグリッドを3箇所設定した。

作業手順としては、まず重機により造構確認層直上までの表土を除去し、続いて人力による造構検出作業を進め、検出した各造構の掘り下げを行った。各造構より出土した遺物は、層位ごとに取り上げた。

測量による記録作業は、造構平面図は、平板測量にて1:10、1:100の縮尺で作図し、土層断面は1:10、1:20の縮尺で作図した。座標及び方位はトータルステーションを使用し、調査地全城を世界測地系の基準線に重ねて記録した。また、標高の基準点は、調査区西部の箕輪東小学校校門に任意のベンチマークX（706.386m）を設定した。写真による記録は、一眼レフデジタルカメラ撮影と、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルム撮影を行った。なお、本書に掲載した遺物写真は、一眼レフデジタルカメラにて撮影した。



第3図 調査区設定図 (1:2,500)

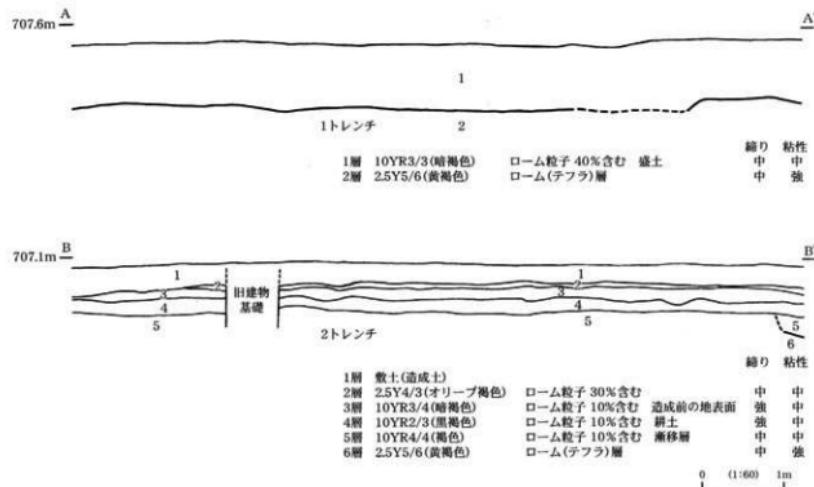


第4図 調査区遺構配置図（全体図）

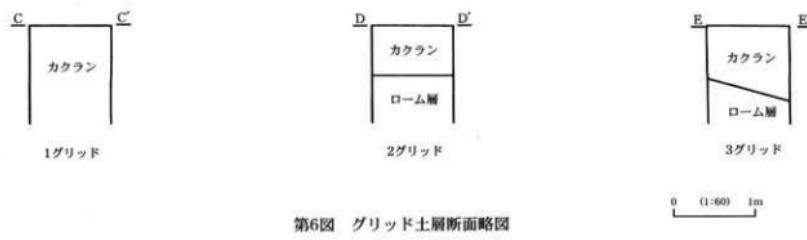
第2節 土層堆積状況（第5・6図）

1トレンチは、東小学校グラウンド造成時に旧地形が削平され、隣接する倉庫等との境界とするために盛土（1層）がなされていた。そのため、盛土の下層はローム（テフラ）層（2層）となっていた。また、トレンチ西側に遺構が疑われる箇所があったため、拡張して調査したが、ごみ穴であった。

2トレンチは比較的残りがよく、敷土、盛土の下に造成前の地表面（3層）と思われる層が確認され、その下に、耕土（4層）、漸移層（5層）、ローム（テフラ）層（6層）が確認できた。遺構は漸移層で検出し、ローム（テフラ）層まで掘り込まれる。各層の詳細は以下の通りである。なお、B区の1～3グリッドは試掘のため、断面図は略図である。



第5図 トレンチ土層断面図

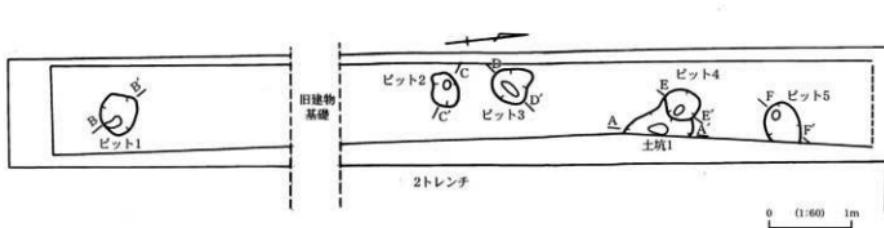


第6図 グリッド土層断面略図

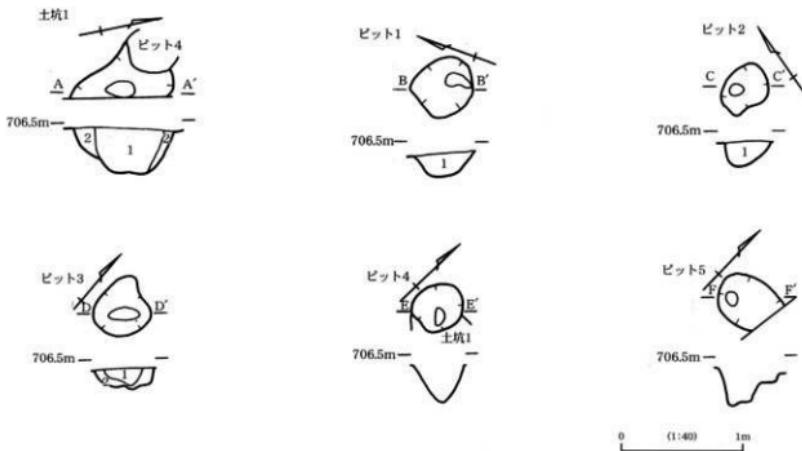
第3節 遺構と遺物

1 土坑・ピット（第7・8図）

2トレンチからは、土坑1基とピット4基が検出された（直径50cm未満をピット、それ以上を土坑とした）。出土遺物がないため、いずれも時期は不明。詳細は土坑一覧表（第2表）、ピット一覧表（第3表）を参照されたい。



第7図 土坑・ピット全体図



第8図 土坑・ピット実測図

No.	規模(cm)			平面形	断面形	覆 土			出土遺物	備考
	長	短	深			織り	粘性			
1 (80)	—	(36)	不整形円形	台形		1層 10YR 4/2 (灰黄褐色) ロームを10%、ローム粒子10%含む 2層 10YR 3/4 (暗褐色) ロームを10%含む	中 中	中 中		

第2表 土坑一覧表

No.	規模(cm)			平面形	断面形	覆 土			出土遺物	備考
	長	短	深			織り	粘性			
1 48	43	18	円形	台形		1層 10YR 3/2 (黒褐色) ロームを30%含む	強	中		
2 44	28	13	不整形	不整形		1層 10YR 3/3 (暗褐色) ロームを30%含む	中	中		
3 49	40	18	不整形	不整形		1層 10YR 3/3 (暗褐色) ロームを50%含む 2層 25Y4/2 (暗灰黄色) ロームを20%含む	中 強	中 中		
4 (41)	(35)	—	円形	V字形						
5 (48)	(41)	—	椭円形	不整形						

第3表 ピット一覧表

2 遺構外出土遺物（第9図）

今回の調査で出土した遺物はわずかで、いずれも遺構外で見つかっている。すべて土器片で5層から出土している。内訳は、縄文土器5点、土師器10点、須恵器2点、陶磁器11点で、このうち、図化できたものは3点であった。①は縄文土器片（深鉢）で、縄文時代中期のものと思われる。②は外面にタタキ目調整を施す須恵器の甕の破片で、表面に自然軸の付着がみられる。湾曲の状況から大型品と推測される。同様のものは1次調査の際にも採集されている。③は陶器の擂鉢で、中世以降のものと思われる。



第9図 遺構外出土土器拓影図

第4章 総 括

今回の調査は、トレチのみの掘削であった事や、調査箇所が旧村役場や店舗等の建設により搅乱されている箇所が多かった事などから、遺構の検出はわずかで、遺物の出土も僅少であった。そのため、遺跡の全容解明には至らなかった。ここでは、調査結果から推測される見解と過去の調査結果を踏まえ、現在考えられる遺跡の様相を述べて、総括としたい。

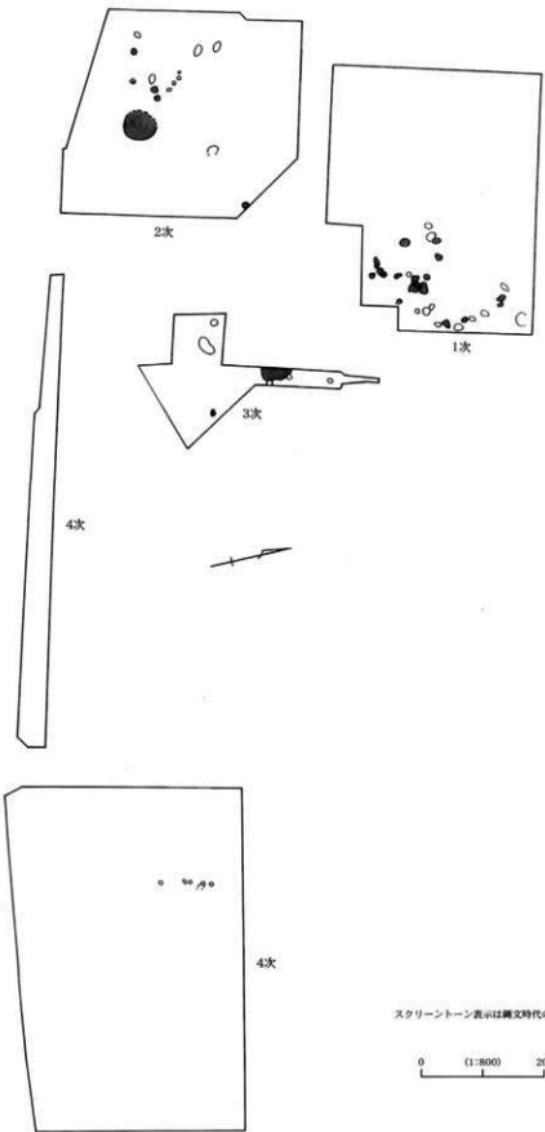
検出された遺構は、土坑1基、ピット5基で、平面形・断面形ともに不整形のものが多く見られた。覆土はいずれも単層または2層に分層され、それ以外の規則性はみられない。遺物は出土せず、時期は不明である。

遺構外から出土した土器片は僅かで、縄文土器、須恵器、擂鉢の破片等であった。縄文土器は1～3次調査で出土した縄文中期初頭の土器片はなかったため、同時期の生活範囲は当該地以西であると推測される。須恵器片②と同様のものは1次調査の際にも出土しており、遺構は確認されていないものの、奈良・平安時代の遺構が存在する可能性があり、複合遺跡であると思われる。また、中世以降の擂鉢③も出土していることを考えると、当該地周辺では、長期間に渡って生活が営まれたものと思われる。

これまでの調査結果を踏まえ、現時点で確認されている遺構配置図（第10図）をみると、本遺跡では土坑が多く検出されていることがわかる。1～3次調査の際にみつかった土坑にも、出土遺物がなく不整形の土坑はみられるが、今回検出された土坑は、3次調査以前のものに比べ規模が小さいため、同形態の土坑なのかは不明である。また、遺構は縄文時代のものが最も多く、住居址も2軒確認され、位置的にある程度まとまっている。今回の調査ではピットと土坑のみの検出で、住居址は確認できなかった。このことから、時間幅はあるが、縄文時代を通しての生活範囲は、概ね段丘端から約70mの場所にあったのではないかと思われる。そして、本調査地でも須恵器片や陶器片が出土していることから、時代が下るにつれて生活範囲が東に広がっていったのではないかと推測される。

以上、過去の調査成果も踏まながら各遺構・遺物に対する推測を述べてきた。本遺跡は、縄文時代から平安時代まで、長期に渡って人々が生活の場として利用してきた地である可能性があり、箕輪町の歴史を考える上でも重要な遺跡である事は間違いない。しかし、今回調査した箇所は遺跡の一部であり、全容を解明するためには更なる調査が必要と思われる。

本書の末筆にあたり、調査の成果が郷土の歴史と文化を解明する上で有意義に活用され、より多くの人に文化財保護にご理解いただければ幸いである。調査の進行と本書の作成にあたり、ご支援ご協力をいただいた南小河地区の皆様、箕輪東小学校関係者の皆様、作業にあたって頂いた作業員の皆様、そして調査にご協力いただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。



第10図 大垣外遺跡遺構配置図



1トレンチ（東から）



1トレンチ断面（東から）



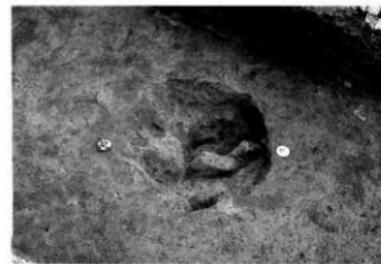
2トレンチ（南から）



2トレンチ断面（西から）



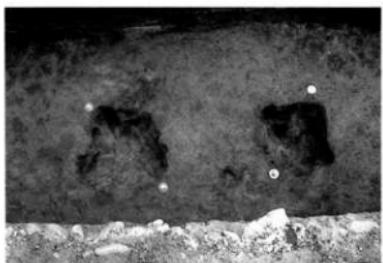
ピット4 土坑1断面（西から）



ピット1（南西から）



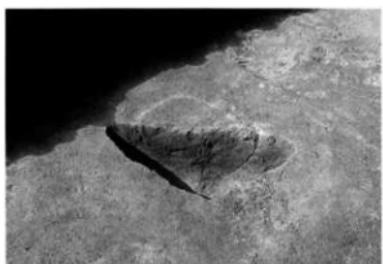
ピット1断面（南西から）



ピット3



ピット2断面（南東から）



ピット3断面（南東から）



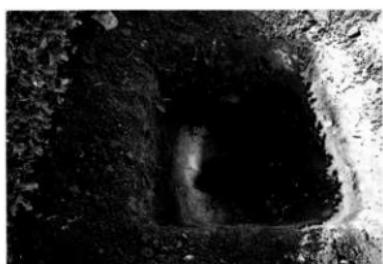
ピット5（北西から）



1グリッド（東から）



2グリッド（東から）



3グリッド（東から）



出土遺物（土器片）

報告書抄録

ふりがな	おおがいといせき							
書名	大垣外遺跡							
副書名	第4次埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	柴秀毅 井澤はずき							
編集機関	箕輪町教育委員会							
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地 (代)Tel0265-79-3111							
発行年月日	2014年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	°	'	°	'	年	月	日
大垣外遺跡	長野県上伊那郡 箕輪町大字 ひがしのわ 東箕輪3180番地 2他	20383	112	35° 55' 59"	137° 59' 37"	2011.9.28 ~ 2011.10.7	100	東みのわ 保育園 建設場所 選定
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大垣外遺跡	集落址	縄文時代 奈良・ 平安時代 中近世	土坑 ビット	1基 5基	縄文土器、須恵器、 陶器	詳細な時期は不明		
要約	土坑1基、ビット5基を検出した。詳細な時期は不明。縄文時代中期の土器片や、大甕と思われる須恵器片が出土したが、遺構・遺物とともに検出は僅少であったため、本遺跡の中心は、当該地より西側にあると推測される。							

堰下遺跡

第2次埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

本文目次

本文目次

挿図目次・表目次

第1章 発掘調査の概要.....	22
第1節 調査に至る経過.....	22
第2節 調査概要と体制.....	23
第3節 調査の経過.....	23
第2章 遺跡の環境.....	24
第3章 調査結果.....	24
第1節 調査方法.....	24
第2節 土層堆積状況.....	26
第3節 遺構.....	27
第4章 総括.....	28

図 版

報告書抄録

参考・引用文献

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図

第4図 トレンチ土層断面図

第2図 調査区設定図

第5図 土坑実測図

第3図 調査区トレンチ配置図（全体図）

表 目 次

第1表 土坑一覧表

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

堰下遺跡は、箕輪町大字東箕輪の南小河内区に位置し、中央・南両アルプスの上界に伴う地殻変動によって形成された段丘上に所在する。遺跡地からの展望も良く、南東に南アルプス、天竜川をはさんで西方には中央アルプスが展望できる。遺跡地は天竜川左岸より一段高い段丘上に位置し、学校・宅地が立ち並び、田畠などの耕作地も点在している。

本遺跡では、平成16年度に町道改良工事に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の掘立柱建物址の他、縄文土器、土師器、須恵器等が出土している。

今回、東箕輪地区にある、長岡・おごち両保育園の園舎老朽化等により、両保育園の統合が決まり、新たに園舎を建設することとなった。平成24年6月に町子ども未来課から連絡を受け、用地が埋蔵文化財の包蔵地に当たる事から、その保護処置について、子ども未来課と生涯学習課との間で協議を重ねた。その結果、園舎建設により文化財の破壊が余儀なくされる約800m²を対象に、発掘調査による記録保存を行うこととなった。業務は町教育委員会（生涯学習課）が実施することとなった。



第1図 調査地位置図 (1:50,000)

第2節 調査概要と体制

- 1 遺跡名 堀下遺跡
- 2 所在地 長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3229番地8他
- 3 調査期間 平成25年3月1日～平成25年3月15日（発掘調査）
平成25年4月1日～平成26年3月15日（整理作業）
- 4 事務局（発掘調査時）

教育長	唐澤義雄
生涯学習課長	唐澤清志
文化財係長	柴秀毅（箕輪町郷土博物館 学芸員）
文化財係	有賀一治（　　〃　　）
臨時職員	井澤はずき（　　〃　　）
- 5 調査団（発掘調査時）

調査団長	唐澤義雄
調査副団長	唐澤清志
調査担当者	柴秀毅、井澤はずき
調査団員	伊藤輝彦、大串進、岡文行、小川陽三、小嶋清春、小林堅良、唐澤栄治、堀川利平（※50音順）

第3節 調査の経過

- 3月1日（金）トレント設定。安全対策のバリケード設置。
- 4日（月）調査用重機（バックホー）を搬入し、東西方向に5本トレントを開ける。
- 5日（火）各トレント掘り下げ。1・2・4トレント写真撮影、土層断面測量。
- 6日（水）3・5トレント写真撮影・土層断面測量。全体測量。道具片付け。
- 9日（土）重機による埋め戻し。
- 15日（金）重機の搬出。バリケード片付け。現場での調査終了。

第2章 遺跡の環境

当遺跡は、大垣外遺跡と隣接しているため、第2章は「大垣外遺跡」第2章を参照のこと。

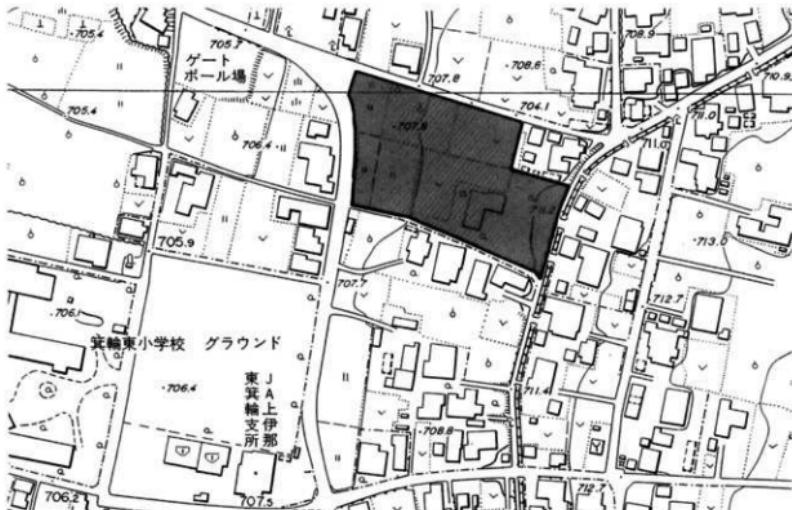
第3章 調査結果

第1節 調査方法

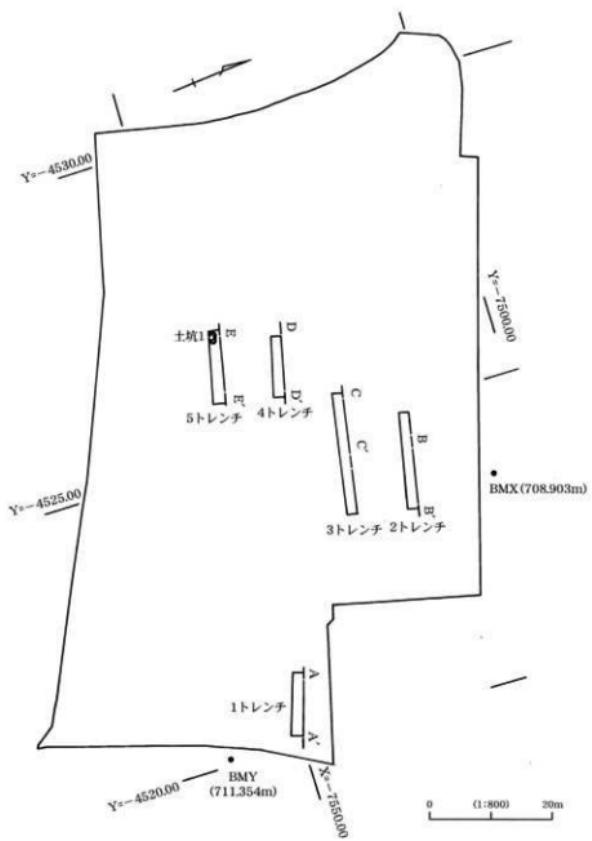
発掘調査は、まず遺構の有無を確認するため、園舎建設予定地を中心に5本のトレーナーを東西方向に設定した。

作業手順としては、まず重機により遺構確認層直上までの表土を除去し、続いて人力による遺構検出作業を進めた。

測量による記録作業は、遺構平面図は、平板測量にて1:100の縮尺で作図し、土層断面は1:10の縮尺で作図した。座標及び方位はトータルステーションを使用し、調査地全域を世界測地系の基準線に重ねて記録した。また、標高の基準点は任意のベンチマークとして、調査区北の町道750号線のマンホールにX(708.903m)、町道745号線のマンホールにY(711.354m)を設定した。写真による記録は、一眼レフデジタルカメラ撮影と、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルム撮影を行った。



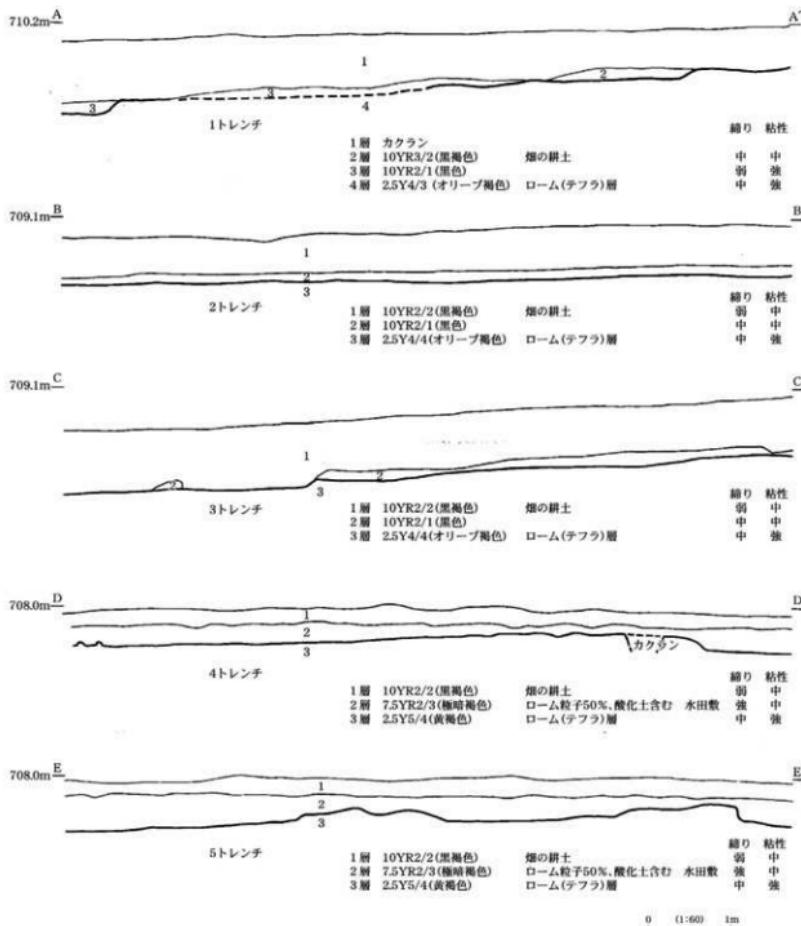
第2図 調査区設定図 (1:2,500)



第3図 調査区トレンチ配置図（全体図）

第2節 土層堆積状況（第4図）

1～5トレントとも第1層として畑の耕作土が確認された。その下層は黒色土、さらに下層はローム（テフラ）層であった。また、4・5トレントからは畑の耕土とローム（テフラ）層の間に水田敷が確認された。5トレントから土坑1基が検出された。この遺構はローム（テフラ）層（3層）で検出した。この他には遺構・遺物は確認出来なかった。各トレントの詳細は以下の通りである。

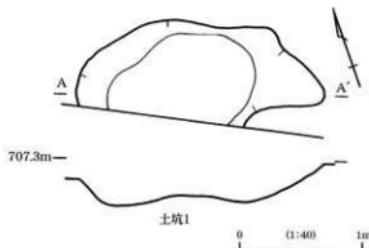


第4図 トレント土層断面図

第3節 遺構

1. 土坑（第5図）

5トレンチ内から土坑が1基検出された。ローム（テフラ）層から検出され、平面規模は約2mと大型の割には深さは約40cmと浅い。水田造成の際、上部を削平された可能性も考えられる。遺物は出土せず、時期は不明。詳細は土坑一覧表（第2表）を参照のこと。



第5図 土坑実測図

No.	規模 (cm)			平面形	断面形	覆 土	出土遺物	備考
	長	短	深					
1 (202)	—	(38)		不整形	不整形			

第1表 土坑一覧表

第4章 総 括

今回の調査は、対象は広い範囲であったが、トレンチによる確認調査の結果、遺構・遺物はほとんど確認出来なかった。この章では、今回の調査結果から推測される見解を述べて、総括としたい。

各トレンチの土層堆積状況をみると、どのトレンチからも畑の耕作土が確認できることから、当該地は広く畑作が行われていたことがわかる。また、調査地の西に位置する4・5トレンチでは水田敷も認められ、水田が営まれていたことがわかる。しかし、本来ローム（テフラ）層の上に認められる漸移層は、どのトレンチでも確認出来なかった。平成16年度の調査では、本調査地のすぐ北側を試掘しており、そこでは漸移層が確認されている。この事から、当該地は農地造成の際、ローム（テフラ）層まで大きく削平されているものと思われる。また、遺物も全く確認されなかつた事から、当該地は元々遺構・遺物が希薄な場所であると考えられる。

以上、調査の成果も踏まえながら本調査地に対する推測を述べてきた。しかし、今回調査した箇所は遺跡の一部であり、全容を解明するためには更なる調査が必要と思われる。

本書の末筆にあたり、調査の成果が郷土の歴史と文化を解明する上で有意義に活用され、より多くの人に文化財保護にご理解いただければ幸いである。調査の進行と本書の作成にあたり、ご支援ご協力をいただいた南小河地区の皆様、作業にあたって頂いた作業員の皆様、そして調査にご協力いただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。



1トレンチ（東から）



1トレンチ断面（東から）



2トレンチ（東から）



2トレンチ断面（東から）



3トレンチ（東から）



3トレンチ断面（東から）



4 トレンチ（東から）



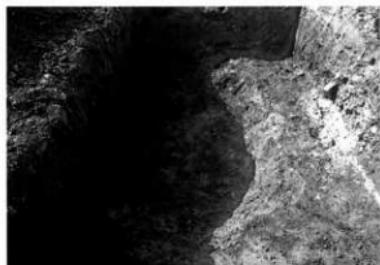
4 トレンチ断面（東から）



5 トレンチ（東から）



5 トレンチ断面（東から）



土坑1（東から）

報告書抄録

ふりがな	せぎしたいせき							
書名	堰下遺跡							
副書名	第2次埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	柴 秀毅 井澤 はずき							
編集機関	箕輪町教育委員会							
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字箕輪10,291番地 (代)Tel0265-79-3111							
発行年月日	2014年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号			。	。			
せぎしたいせき 堰下遺跡	ながのけんかみいなぐん 長野県上伊那郡 みのわまちのわ 箕輪町大字 ひがしのみのわ 東箕輪3229番地 8他	20383	113	35° 56' 03"	137° 59' 43"	2013.3.1 ～ 2013.3.15	120	東みのわ 保育園 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
堰下遺跡	集落地	縄文時代 平安時代 中世 近世	土坑	1基	なし			
要約	園舎建設予定地800m ² に5本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、時期不明の土坑を1基確認したのみで、その他に、遺構・遺物は確認できなかった。このことから、当該地に遺構はないものと思われる。							

参考・引用文献（著者名50音順）

- 鳥居龍藏 1926『先史及原始時代の上伊那』
- 長野県教育委員会 1974『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』
－上伊那郡箕輪町－
- 長野県史刊行会 1988『長野県史』考古資料編 全1巻(4)遺構・遺物編
- 箕輪町教育委員会 2001『上ノ平城跡』
- 箕輪町教育委員会 2012『上ノ平遺跡』
- 箕輪町教育委員会 1990『大垣外遺跡』
- 箕輪町教育委員会 1993『大垣外遺跡』(第2次)
- 箕輪町教育委員会 1994『大垣外遺跡』(第3次)
- 箕輪町教育委員会 1993『北田遺跡』
- 箕輪町教育委員会 2006『北田遺跡』(第2次)
- 箕輪町教育委員会 2005『堰下遺跡』
- 箕輪町教育委員会 1997『箕輪町遺跡詳細分布調査報告書』
- 箕輪町誌編纂刊行委員会 1976『箕輪町誌』第1巻 自然・現代編
- 箕輪町誌編纂刊行委員会 1986『箕輪町誌』第2巻 歴史編

大垣外遺跡 堤下遺跡

平成26年3月発行

編集・発行 長野県上伊那郡箕輪町
教育委員会

印 刷 龍共印刷株式会社
